

(16) 千葉港 ～活気あふれる海へのアクセス～

基本方針

- ・水と緑の魅力的な海の玄関口

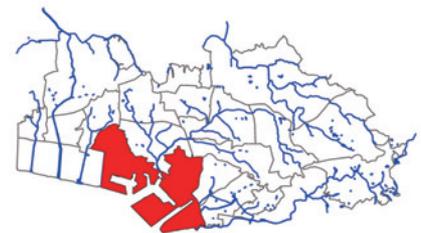
水域の概要と水環境の現状

1) 水域の概要

区名	町丁名
中央区	青葉町*、稲荷町1～3丁目、亥鼻2～3丁目、今井1～3丁目、春日1～2丁目、葛城1～3丁目、川崎町、塩田町*、汐見丘町、白旗1丁目、白旗2丁目*、白旗3丁目、新宿1丁目、新千葉3丁目*、新田町*、新町*、末広2丁目*、末広3～5丁目、蘇我1丁目、蘇我町2丁目、千葉寺町、千葉港、中央港1～2丁目、出洲港、問屋町、新浜町、登戸1～5丁目、浜野町*、松波2丁目*、松ヶ丘町*、南町1～3丁目、宮崎町、宮崎1～2丁目、村田町*、若草1丁目
稲毛区	穴川町、穴川1～2丁目、穴川3丁目*、穴川4丁目、稲丘町、稲毛1丁目*、稲毛台町、稲毛東1丁目、稲毛東2丁目*、稲毛東3丁目、稲毛東4丁目*、黒砂1～4丁目、黒砂台1～3丁目、小仲台1～4丁目、小仲台5丁目*、小仲台6丁目*、轟町1丁目*、轟町2丁目、轟町3丁目*、緑町1～2丁目、弥生町

(備考)町丁名の後ろの*は、2つ以上の水域にまたがっている町丁を示します。

- ・鉄鋼・電力・食品関係等の大規模工場が数多く立地しているほか、千葉みなと駅から中央港のポートパークにかけては、緑地（公園）や人工海浜が整備されています。
- ・千葉ポートパークでは、毎年、8月の第1土曜日に「千葉市民花火大会」が開催されており、多くの市民で賑わいます。
- ・寒川神社では、近年途絶えていた「御浜下り」（神輿を担ぎ海へ入る儀式）が復活し、毎年8月19～21日には「夕星（ゆうづつ）の祭典」が開催されます。
- ・平成22年7月末現在、水域内の人口は約130,800人、世帯数は約61,100世帯です。（推計値）



対象区域位置図



①千葉港

2) 水環境の現状

■水生生物の生息・生育状況

【魚 類】

平成16年度は5種、平成20年度は25種が確認されましたが、重要種※は確認されませんでした。魚類は、イワシ類やスズキなどの遊泳魚を中心に確認され、ハゼ類等の底生魚の確認種は少ない状況です。千葉港内の底質はヘドロ質で硫化水素臭を呈しており、底生魚にとっての生息環境は、厳しい状態にあると言えます。

【底生生物】

平成16年度2種、平成20年度は確認種がありませんでした。重要種は確認されていません。いずれの年においても、底質はヘドロ質で、底生生物の生息環境は厳しい状態にあると言えます。

◇底生生物による生物学的水質判定

底生生物による生物学的水質判定を行うと、平成16年度の春季は2種が確認され、強汚濁海底と判定されましたが、その他の調査では、底生生物は確認されず、無生物海底でした。

海域 (地点)	年度	調査 時期	弱過栄養海底	強過栄養海底	弱汚濁海底	強汚濁海底	無生物海底
千葉港	H16	春季				←→	
		秋季					←→
	H20	春季					←→
		秋季					←→

生物学的水質判定結果模式図（千葉港）

【その他】

蘇我緑地はコアジサシの飛来地となっています。

千葉港で確認された水生生物

生物	前千葉市水環境保全計画 指標生物	H16現況	H20現況
底生生物	タデジマフジツボ エビシヤコ等	イトゴカイ科の一種 シノブハネエラスピオ	なし
付着生物		タマキビガイ コウロエンカワヒバリガイ マガキ ウスラシオツガイ デンガクゴカイ シロスジフジツボ タデジマフジツボ など全15種	タマキビガイ コウロエンカワヒバリガイ マガキ ウスラシオツガイ デンガクゴカイ アメリカフジツボ タデジマフジツボ など全27種

注) **太字**は指標生物を示します。

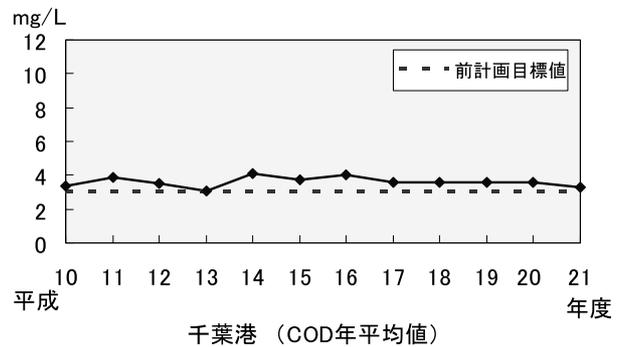
※重要種

環境省や千葉市のレッドリスト等に記載され、千葉市の保護上重要な野生生物のことをいいます。

■水質・流量等の状況

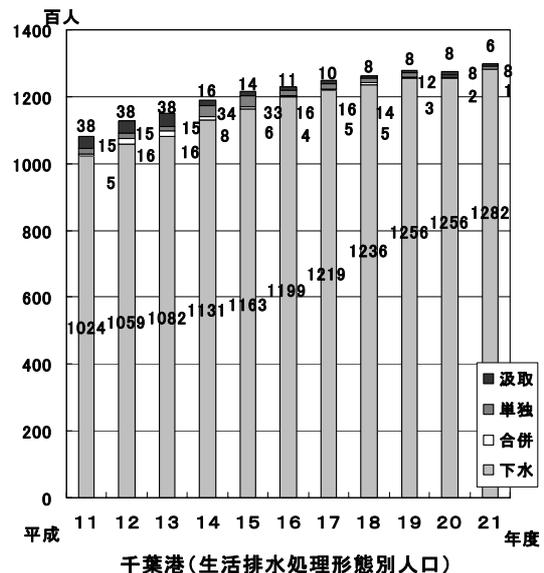
【海域の水質】

新港コンビナート湾内のCOD（化学的酸素要求量）年平均値は、平成10年度以降、横ばいの傾向を示しており、3.0～4.1mg/Lの範囲で推移しています。前計画目標値の3mg/Lをわずかに上回っており、水質改善に向けた取り組みが必要です。



【生活排水処理形態別人口】

平成21年度における処理形態別の水域人口の割合は、下水道処理人口が約99%となっており、大部分が下水道で処理されています。



注) 汲取…汲み取り
 単独…単独処理浄化槽
 合併…合併処理浄化槽
 下水…公共下水道

望ましい水環境の姿

1) 生物指標

魚類等	クロダイ、シロギス、イシガレイ等（内湾に棲む魚類）
底生生物	タテジマフジツボ、エビシャコ等（護岸に棲む底生生物）

2) 物理環境

水際（なぎさ）	・港湾機能の維持を図りつつも、親水性や修景性に配慮した水際を創造する。 ・臨海地域の事業活動への影響や安全確保に十分配慮し、身近に楽しむことのできる海洋性レクリエーション空間の創造、パブリックアクセスを確保する。
周辺地域	千葉市の海の玄関口にふさわしい風情のある港湾景観づくりを周辺地域も含めて形成する。

3) 水質・流量

COD	3mg/L以下
溶存酸素量	5mg/L以上
全窒素	1mg/L以下
全りん	0.09mg/L以下
全亜鉛	0.02mg/L以下

目標達成のための取組み

1) いろいろな水辺の生き物の保全

- ・千葉ポートパークの人工海浜を保全することにより、鳥類、魚類、底生生物等の多様な生物が生息可能な場を創出し、生態系の回復に努めます。

2) 親しみのもてる水辺の創出

- ・千葉港のシンボルパークとして整備され、人工海浜もある千葉ポートパークを市民の憩いの場として、適切に維持管理します。

3) ゆたかな流れ（水量）の確保

- ・市民の森（松ヶ丘、石橋山）において、市民との連携による維持管理を実施します。
- ・雨水排水の流出抑制及び地下水のかん養を図るために、雨水浸透ます等の設置を推進します。
- ・新港横戸町線の整備にあたり、緑化を推進します。

4) きれいな水（水質）の保全

- ・公共下水道の整備及び接続の指導を推進します。
- ・「化学的酸素要求量、窒素含有量およびりん含有量に係る総量削減計画」に基づく総量規制を推進します。
- ・千葉港沿岸の大規模工場・事業場に排水規制の遵守を指導します。
- ・合流式下水道（汚水と雨水を1本の管で集めるシステムの下水道）の改善対策の一環として、浸水対策を兼ね備えた貯留管を整備し、降雨時に未処理下水を一時的に貯めることで河川への放流水質や放流量のピークを抑制します。
- ・船舶から発生するバラスト水、またはビルジの処理を推進（油濁防止事業）します。
- ・油等の流出事故による海洋汚染を防止するための資材（オイルフェンス等）を確保します。

主な施策

いろいろな水辺の生き物の保全	地域生態系の保全・再生
親しみのもてる水辺の創出	千葉港港湾環境の整備・管理（千葉ポートパーク）
ゆたかな流れ（水量）の確保	市民の森の整備・市民協働による維持管理（松ヶ丘）
	下水道雨水貯留浸透事業 道路緑化の推進（新港横戸町線）
きれいな水（水質）の保全	生活排水対策の推進〔公共下水道への接続等〕
	東京湾総量削減計画の推進
	工場・事業場排水等の適正処理の指導
	合流式下水道の改善（中央港など） 千葉港の浚渫・油濁対策事業

(17) いなげの浜～幕張の浜 ～豊かな水と開放的な水辺～

基本方針

- ・ 緑あふれる憩いとレクリエーションの水辺

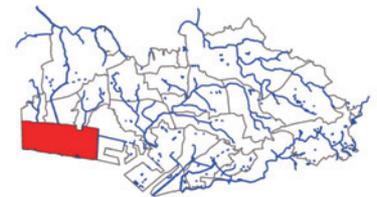
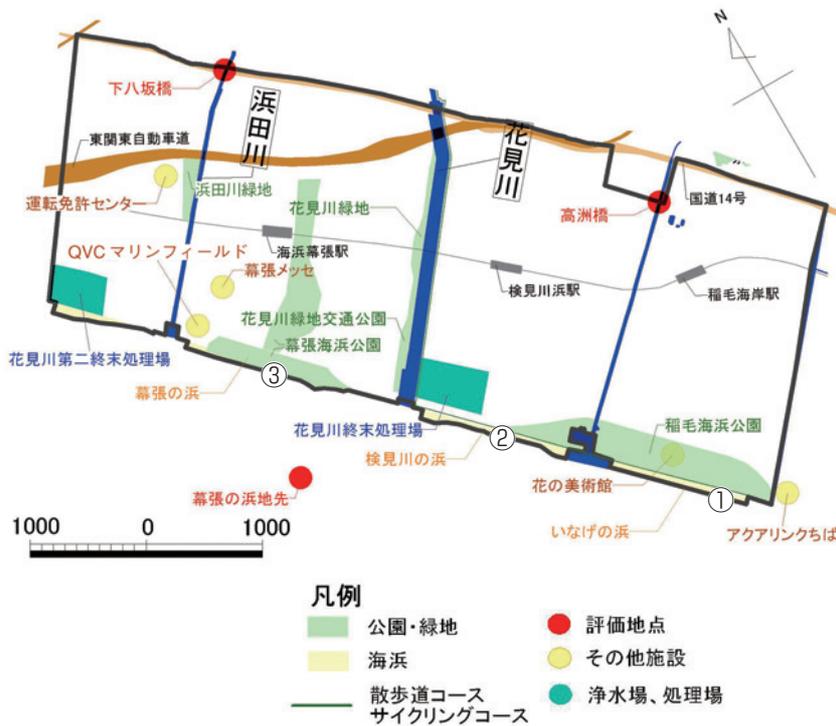
水域の概要と水環境の現状

1) 水域の概要

区名	町丁名
花見川区	幕張町1丁目*、幕張町2丁目*、幕張町3丁目*、幕張町4丁目*、幕張町5丁目*
美浜区	磯辺1～8丁目、稲毛海岸1～4丁目、打瀬1～3丁目、高洲1～4丁目、高浜1～7丁目、豊砂、中瀬1～2丁目、浜田1～2丁目、ひび野1～2丁目、幕張西1～6丁目、真砂1～5丁目、美浜、若葉1～3丁目

(備考)町丁名の後ろの*は、2つ以上の水域にまたがっている町丁を示します。

- ・ いなげの浜、幕張の浜、検見川の浜と3つの人工海浜が造成されています。いなげの浜は海水浴場として利用されており、東京湾再生推進会議のアピールポイントとなっています。また、稲毛海浜公園は千葉県指定の東京湾アピールポイントになっています。
- ・ 当該水域には、大型住宅団地や下水場処理場等が立地しています。さらに、幕張臨海部は、幕張新都心に代表されるように開発が進められています。
- ・ 平成22年7月末現在、水域内の人口は約133,300人、世帯数は約55,500世帯です。(推計値)



対象区域位置図



③幕張の浜



①いなげの浜



②検見川の浜



2) 水環境の現状

■水生生物の生息・生育状況

【魚 類】

平成16年度は31種、平成20年度は31種が確認されました。このうち重要種※は、ウナギが確認されました。確認種としては、イワシ類やスズキなどの遊泳魚の他にも、ホウボウやマゴチ、ハゼ類、カレイ類などの底生魚が確認され、魚類の生息環境は比較的良好であると言えます。

【底生生物】

平成16年度は25種、平成20年度は12種確認されましたが、重要種は確認されませんでした。確認種をみると、平成16年度の調査では環形動物、軟体動物、節足動物、腔腸動物、紐形動物、線形動物の6動物門が確認されましたが、平成20年度には環形動物と線形動物の2動物門しか確認されず、確認種数が減少しています。

◇底生生物による生物学的水質判定

底生生物による生物学的水質判定を行うと、平成16年度及び平成20年度春季ともに、弱汚濁海底の判定となりました。しかし、平成20年度秋季は、強汚濁海底の判定となりました。

海域 (地点)	年度	調査 時期	弱過栄養海底	強過栄養海底	弱汚濁海底	強汚濁海底	無生物海底
いなげの浜 ～ 幕張の浜	H16	春季			←→		
		秋季			←→		
	H20	春季			←→		
		秋季				←→	

生物学的水質判定結果模式図（いなげの浜～幕張の浜）

【その他】

検見川の浜では、市の鳥であるコアジサシの飛来が毎年確認されています。

幕張の浜地先で確認された水生生物

生物	前千葉市水環境保全計画 指標生物	H16現況	H20現況
底生生物	チロリ ゴカイ アサリ ホトギスガイ アラムシロガイ	シズクガイ ヤマトスピオ エラナシスピオ など全25種	クシガキゴカイ シノフハネエラスピオ イトエラスピオ など全12種
付着生物		ホトギスガイ ミドリガイ デンガクゴカイ など全18種	ホトギスガイ ムラサキガイ ヒゲフトゴカイ など全32種

注) **太字**は指標生物を示します。

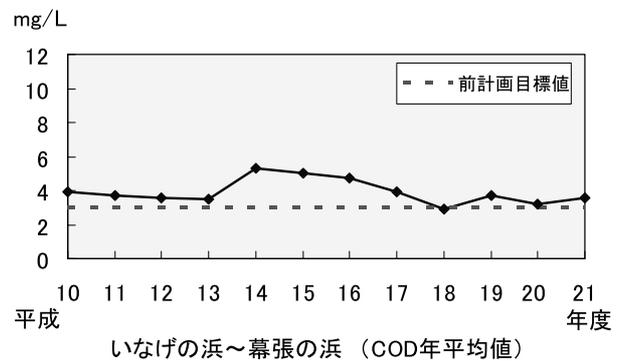
※重要種

環境省や千葉市のレッドリスト等に記載され、千葉市の保護上重要な野生生物のことをいいます。

■水質・流量等の状況

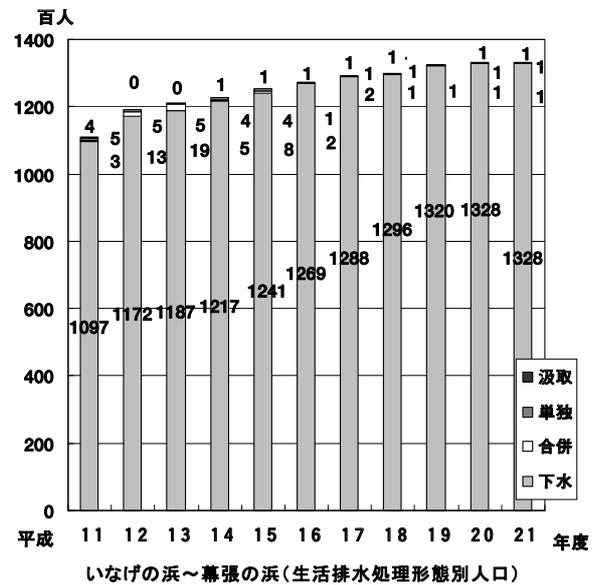
【海域の水質】

幕張の浜地先のCOD（化学的酸素要求量）年平均値は、平成10年度以降、ほぼ横ばいの傾向にあり、3.0～5.3mg/Lの範囲で推移しています。前計画目標値の3.0mg/Lをやや上回っており、水質改善に向けた取り組みが必要です。



【生活排水処理形態別人口】

平成21年度における処理形態別の水域人口の割合は、下水道処理人口が約99%となっており、大部分が下水道で処理されています。



注) 汲取…汲み取り
 単独…単独処理浄化槽
 合併…合併処理浄化槽
 下水…公共下水道

望ましい水環境の姿

1) 生物指標

魚類等	クサフグ、コトヒキ、ボラ、シマイサキ、ハゼ等（海浜に棲む魚類）
底生生物	チロリ、ゴカイ、アサリ、ホトトギスガイ、アラムシロガイ等（海浜に棲む底生生物）

2) 物理環境

水際（なぎさ）	・人々が集い、憩い、水辺とふれあうことのできる快適でにぎわいのある水際を創造する ・東京湾を代表する海水浴、潮干狩り等の海辺レクリエーション空間として、安全性、美観、利便性、自然環境に配慮した海浜整備を図る
周辺地域	人工海浜や河川下流域に沿って連続した緑地の整備を維持し、景観の優れた緑豊かなウォーターフロントの形成を図る

3) 水質・流量

COD	3mg/L以下
溶存酸素量	5mg/L以上
糞便性大腸菌群数	100MPN/100 mL以下
全窒素	0.6mg/L以下
全りん	0.05mg/L以下
全亜鉛	0.02mg/L以下

目標達成のための取組み

1) いろいろな水辺の生き物の保全

- ・ 検見川の浜ではコアジサシの飛来が確認されていることから、ふれあい自然観察会等を積極的に開催し、人と生き物とのふれあい意識の醸成・啓発に努めます。

2) 親しみのもてる水辺の創出

- ・ 検見川の浜では遊歩道等の整備を実施し、市民が親しみのもてる海辺の創出に努めます。
- ・ 人工海浜は浸食や流動化等が起こりやすいことから、継続した調査を実施し、環境の保全に努めます。

3) ゆたかな流れ（水量）の確保

- ・ 稲毛海浜公園等の公園・緑地の維持管理や整備に努め、豊かな地下水を育むかん養域の確保を図ります。

4) きれいな水（水質）の保全

- ・ 公共下水道を整備し、接続の指導をします。
- ・ 「化学的酸素要求量、窒素含有量およびりん含有量に係る総量削減計画」に基づく総量規制を推進します。
- ・ 稲毛海浜公園のヨットハーバー周辺の浚渫を実施します。

主な施策

いろいろな水辺の生き物の保全	生き物ふれあい意識の醸成・啓発〔ふれあい自然観察会等〕 (検見川の浜、いなげの浜)
親しみのもてる水辺の創出	千葉港海岸環境の整備・管理（検見川の浜）
	人工海浜（いなげの浜）の養浜
	人工海浜（いなげの浜）の地形調査
ゆたかな流れ（水量）の確保	都市公園、緑地等の維持管理（稲毛海浜公園など）
きれいな水（水質）の保全	生活排水対策の推進〔公共下水道への接続等〕
	東京湾総量削減計画の推進
	稲毛海浜公園ヨットハーバー周辺の浚渫